

Information

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展 邂逅する写真たち —モンゴルの100年前と今

時代を超えてモンゴルの中心地であり続けるウランバートル。約100年前は、チベット仏教の宗教都市として栄え、市場には遊牧民や民族衣装を着て物を売り買いする人々が多く見受けられた。一方、現代は近代化を遂げたグローバル都市として栄え、そこに行き交う人々の装いや暮らし方は多様化している。本展では、ロシアや西欧からの探検家が写した100年前とモンゴル人ドキュメンタリー写真家が写した現代の、二つの時代に撮られた700点以上の写真を展示。「過去」と「現在」、「他者」と「自己」の比較から浮き彫りになるモンゴルとは。



ウルガ(現ウランバートル)の警備兵たち、1913年 O.マーメン撮影、オスロ大学文化史博物館蔵

会期：2022年3月17日(木)～5月31日(火)

会場：国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

観覧料：一般880円(600円) 大学生450円(250円)

*高校生以下無料/20名以上の団体、リピーターは() 内料金を適用

休館日：水曜日、ただし5月4日(水)は開館、5月6日(金)は休館

モンゴル人ドキュメンタリー写真家 B.インジャーシとの座談会など関連の催しも併せて開催。

ファストファッション産業の舞台裏

メイド・イン・バングラデシュ

上映期間：4月16日(土)より岩波ホール、以後全国順次公開

監督：ルバイヤット・ホセイン

出演：リキタ・ナンディニ・シム、ノベラ・ラフマンほか

配給：パンドラ



© 2019 - LES FILMS DE L' APRES MIDI - KHONA TALKIES- BEOFILM - MIDAS FILMES

世界第2位の縫製品輸出国で、大手衣料ブランドが集まるバングラデシュ。低賃金な上に深夜まで働いても残業代なし、手をミシンで縫ってしまっても補償金はなし、火災が起きても非常口はないという劣悪な労働環境下の縫製工場に働く女性シム。仲間の抵抗や夫の反発に遭いながらも、シムは労働環境の改善のために労働法を片手に労働組合の設立を目指す。経営者、家父長制、制度の複雑さ、そして製品を消費する先進国の存在などさまざまな困難に挑む実話に基づいたヒューマンストーリー。